



卓話モデル1

ロータリーの歴史

～職業奉仕入門編～

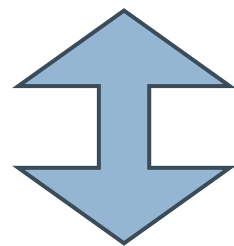
国際ロータリー 第2570地区
2025-26年度職業奉仕委員会

初期ロータリー①

1905年 ロータリークラブ設立

当時のシカゴ

：低俗、貧欲、腐敗が渦巻く街
「儲けたものが勝ち」



初期ロータリー

：親睦

相互扶助 (Mutual Helpfulness)

→のちのServiceという観念に繋がる

信頼できる
人間関係を作ろう



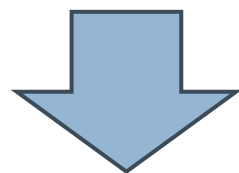
最初のロータリアン。左からシルベスター・シール、ポール・ハリス(本を指している)、ハイラム E. ショーリー、ガスターバス H. ローア。

初期ロータリー②

1905年12月 ドナルドカーターより助言

こういうクラブは会員以外の人の役に立つようなことを行えば、将来性があると思います。

クラブは何か地域社会に奉仕すべきです。



1907年 シカゴの街に公衆トイレを設置すべく働きかけ
：ロータリーの社会奉仕第1号

ロータリー哲学の進化①

1910年 第一回ロータリー大会 晩餐会にて
アーサー・フレデリック・シェルドンがスピーチ
「最もよく奉仕する者が最も多く報いられる」
(He profits most who serves his fellows best)

1911年 第二回ロータリー大会にて
He profits most who serves bestが標語として承認
同じ大会期間中にベン・コリンズが
「無私の奉仕」 (Service, Not Self)を紹介

現在 第一標語：「超我の奉仕」 (Service Above Self)
第二標語：「最も多く奉仕する者、最も多く報いられる」
(One Profits Most Who Serves Best)

ロータリー哲学の進化②

ロータリー発足当初

：会員同士の相互扶助 (Mutual Helpfulness)
安心して取引や助け合いができる、
会員同士だけの信頼関係の構築



Serviceという観念の導入

：一般的な助け・役立ちへ
＝相互扶助をロータリーの外部へ拡張



ロータリーの根幹である「奉仕の理念」へ昇華

：現在の「五大奉仕」へ

職業奉仕とは①

職業奉仕：五大奉仕部門のひとつ

2016年規定審議会「制定案16-10 奉仕の第二部門を改正する件」

標準ロータリークラブ定款

第6条 五大奉仕部門

2. 奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践していくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うこと、そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる。

職業奉仕とは②

相手の利益を優先し、
高潔性をもって社会に役立つ仕事をする



職業のスキルを活かし、社会に役立てるような
「活動」「行動」をする

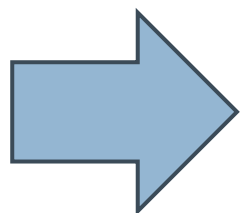
職業奉仕委員会の役割

職業奉仕

：職業人の集うロータリー特有の考え方

しかし・・・

言葉を聞いただけでは想像しづらいという難点も



職業奉仕委員会の役割

：職業奉仕の標準的な考え方を伝えること
職業を活かした奉仕活動の事例を紹介すること

ご清聴ありがとうございました